思考スキルに焦点化した授業設計のためのパンフレット

～思考力育成を目指す授業のために～

「考える」こと

「考える」とはどのようなことでしょうか。考えることのできるこどもを育てるということは現場においても、政策においても重要視されてきたテーマです。それでは、現在、教育現場において求められる能力とはどのような能力なのでしょうか。

キーコンピテンシー、21世紀型スキル、生きる力

これらのベースとして共通するのはこどもたちの「思考力」です。
現在の学習指導要領において求められる生きる力について、中央教育審議会答申では以下のように説明しています。

これからの子供たちに必要となるのは、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、（中略）我々は、こうした資質や能力を、変化の激しいこれからの社会を［生きる力］と称することとし、これらをバランスよくはぐくんでいくことが重要である

この定義をもとに、「生きる力」の育成を目指して、学習指導要領が改訂されました。
そのポイントとして、文部科学省は以下のように説明しています。

【基礎的・基本的な知識・技能の習得の重視】
● 社会の変化や科学技術の進展等に伴い子どもたちに指導することが必要な知識・技能について、しっかりと教えます
● つまずきやすい内容の確実な習得を図るための繰り返し学習を行います
【思考力・判断力・表現力等の育成の重視】
● 各教科等の指導の中で、観察・実験やレポートの作成など、知識・技能を活用する学習活動を充実します
● 教科等を横断した課題解決的な学習や探究的な活動を充実します

現行の学習指導要領において求められていることは、これまで学習した知識・技能を活用する思考力です。しかし、思考力育成を目指すための具体的な方法は確立されているわけではありません。その理由のひとつが、「思考力」という言葉にはさまざまな意味が含まれるということではないでしょうか。

たとえば、国語の授業において「考える」といったとき、そこで子どもたちに求められることは何でしょうか。作文の場面であれば、文章構成を「考える」ことであったり、わかりやすい文章を「考える」ことだったりするかもしれません。読解の場合では作者の立場にたって「考える」ことや、物語の意味を「考える」ことが求められることになります。このように、同じ「考える」という言葉を使っていても、それぞれの場面で要求される学習活動は異なります。同じ教科内においてもこどもたちに求められる「考える」は多種多様なのです。教科が変われば、そのバリエーションはさらに増えるでしょう。

これでは、学校教育の中で体系的に思考力を育成するのは難しくなってしまうように思われます。

『考える』ってなんだろう？

思考スキル

ここで、「考える」ということをもっと具体的にしてみましょう。

たとえば、文章構成を「考える」といったときにこどもに期待することは何でしょうか。それはきっと、作文のための資料を集め、それを「分類」し、内容がわかりやすくなるように「順序だて」て、「構造化」して文章を組み立てることだったり、自らの主張がわかりやすくなるように「多面的にみる」ことで、自分の文章を「評価する」ことだったりするでしょう。もしかすると、良い文章と自分の文章を「比較する」ことかもしれません。こうして、こどもに求める思考をより具体的な言葉に置き換えることで、学習活動が具体的になり、そのための支援が明確になります。

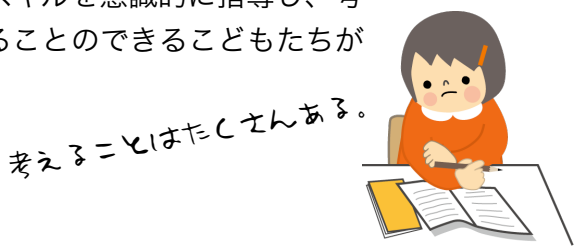
このように思考を具体的に記述した言葉を「思考スキル」と呼んでいます。

こどもたちに求める思考をスキルとして具体化し、さらにレベルを分けることで、教科横断的な思考力を育成することを目指します。「考える」という言葉を具体的にすることで、こどもによりわかりやすい指示や支援をすることができるだけでなく、学校全体として思考力を育てることができるのではないかと考えられます。『このあいだの数学でやった「比較する」のを思い出してやってみよう』や『ここは社会でやった「分類する」を使って考えてみよう』といったように、これまでやったことをもとに指導することが可能になるかも知れません。

考えることを具体的に記述するという考え方は、学習指導要領改訂のもとになった中央教育審議会答申の中にも確認できます。

「比較や分類，関連付けといった考えるための技法」を習得させ，それらを活用する学習活動を充実させる

このように、考えることをあえて技法として表現し、具体化することで思考力育成を目指すことが注目されています。しかし、学習指導要領はもちろん教科別に記述されているし、思考スキルという考え方を中心に書かれているものではないため、そのような指導を体系的に行なうための指針はありません。

このパンフレットでは、考えることを思考スキルを活用した結果として捉え、思考力育成を目指していくという考え方をもとに、学習指導要領の中に、どのような思考スキルが、いつ求められているのか、さらにそれぞれの思考スキルがどのような関係になっているのかを整理し、それを授業設計に役立てるための方法を提案します。

授業の中でこどもに求める思考を具体的にすることは、学習の支援の方法を具体的にすることだと考えています。もちろん、教育の目標は自ら考えることのできるこどもを育てることであり、思考スキルの習得ではありません。しかし、思考スキルを意識的に指導し、考え方をこどもたちに身に付けさせることで、自ら考えることのできるこどもたちが育つきっかけになるのではないかと考えています。